

「にっこり」の水浸状障害について 追肥による発生軽減効果を確認しています

【背景】

本県育成品種の「にっこり」は、晩生で長期貯蔵が可能で、国内のみならず国外でも人気が高い品種です。しかし、近年地球温暖化の影響により高温・乾燥が続くような年に果実生理障害が多発し、選果時に規格外として廃棄される果実が多く発生してしまうことがあります。そのため、その発生要因の解明と対策技術の確立が急務となっています。

これまでの試験経過から収穫前の窒素肥料の減少と、それに伴う果実の早熟が要因である可能性があることから**追肥による発生軽減効果を確認**しました。



写真 水浸状障害発生果実

【試験内容】

にっこりの満開後 120～180 日（10 日ごとに計 7 回）、150～180 日（10 日ごとに計 4 回）及び、180 日に 1 回、それぞれ尿素 500 倍液を葉面散布により追肥を行い、障害の発生程度、果実品質への影響について調査を行いました。

【経過及び今後の取り組み】

満開後 120 日及び 150 日から追肥を行った区で**水浸状障害の発生が軽減**されました。また、**追肥による収穫の遅れや、糖度の低下は見られません**でした。

今後は葉面散布ではなく、基肥に収穫前から窒素成分の溶出が始まる肥効調節型肥料を混用することで、発生軽減が図れないかを検討していく予定です。

表 追肥による果実品質と水浸状障害の発生への影響

試験区	横径 (mm)		果重 (g)		表面色 ^z (C.C)		地色 ^y (C.C)		糖度 (Brix%)	水浸状障害 ^x (指数)		うるみ ^w (指数)		
120-180	116.6	a	841.3	a	5.0	ns	4.8	ns	12.7	ns	0.72	a	0.40	a
150-180	115.9	ab	812.9	ab	5.0	ns	4.9	ns	12.5	ns	0.80	a	0.43	ab
180	113.2	c	767.5	b	5.0	ns	4.9	ns	12.5	ns	0.91	ab	0.62	bc
無処理	113.7	bc	770.4	b	5.0	ns	4.9	ns	12.6	ns	1.15	b	0.73	c

同一列の異なる英文字は Tukey の多重比較検定により 1%水準で有意差があることを示す

z 全国農業協同組合栃木県本部作成にっこり用カラーチャート

y 農林水産省果樹研究所作成日本ナシ地色カラーチャート

x 0(発生無し)～3(重症果)により指数で評価

w 0(発生無し)～2(発生多)により指数で評価

(果樹研究室 岡本 春明)